

平成 29 年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について

1 調査の概要

- (1) 調査時期 平成 29 年 6 月
- (2) 調査対象 (都内公立学校 全児童・生徒)
 小学校 1,282 校 (571,599 名)、中学校 619 校 (219,656 名)、中等教育学校 6 校 (5,489 名)、高等学校全日制 173 校 (123,710 名)、定時制・通信制 55 校 (10,579 名)、特別支援学校 43 校 (5,948 名) 計 2,178 校 計 936,981 人

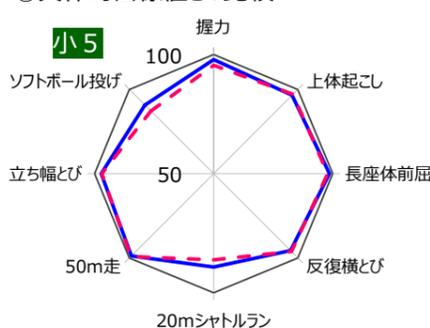
- (3) 調査内容
- ①児童・生徒に関する調査
 - ア 体力・運動能力調査(文部科学省指定 新体力テスト実技 8 種目)
 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンド(ソフト)ボール投げ
 - イ 生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査
 - ②学校に対する質問紙調査

2 結果の概要

- ①…アクティブプラン to 2020 体力テストにおける具体的目標値との比較 ②…平成 28 年度東京都統一体力テストとの比較 ③…東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度との比較
 具体的目標値を 100 とする 男子…実線 女子…点線
 A から E は 5 段階の総合評価 折れ線グラフ…平成 23 年度 棒グラフ…平成 29 年度

(1) 小学校 ~ 5 年生の結果を抜粋~

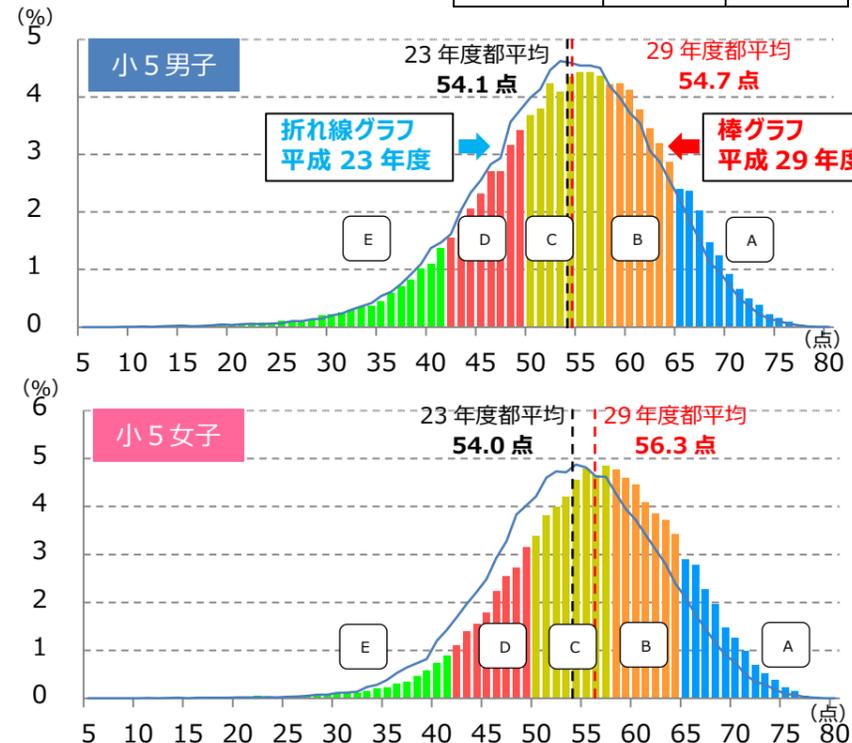
① 具体的目標値との比較



② 種目別傾向 (H28 年度との比較)

	小5 男子	小5 女子
握力	→	→
上体起こし	↗	↗
長座体前屈	↗	↗
反復横とび	↘	→
シャトルラン	↗	↗
50m 走	↗	→
立ち幅とび	↗	↗
ボール投げ	→	→

③ 体力合計点の分布状況



- 目標値と比較すると、「20m シャトルラン」「ソフトボール投げ」の値が低い。
- 前年度の比較では、向上傾向を示す種目が多いが、男子は「反復横とび」の値が低下。
- 体力合計点平均値は、東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度から向上傾向を示し、特に、女子の値が上昇している。

(2) 中学校 ~ 2 年生の結果を抜粋~

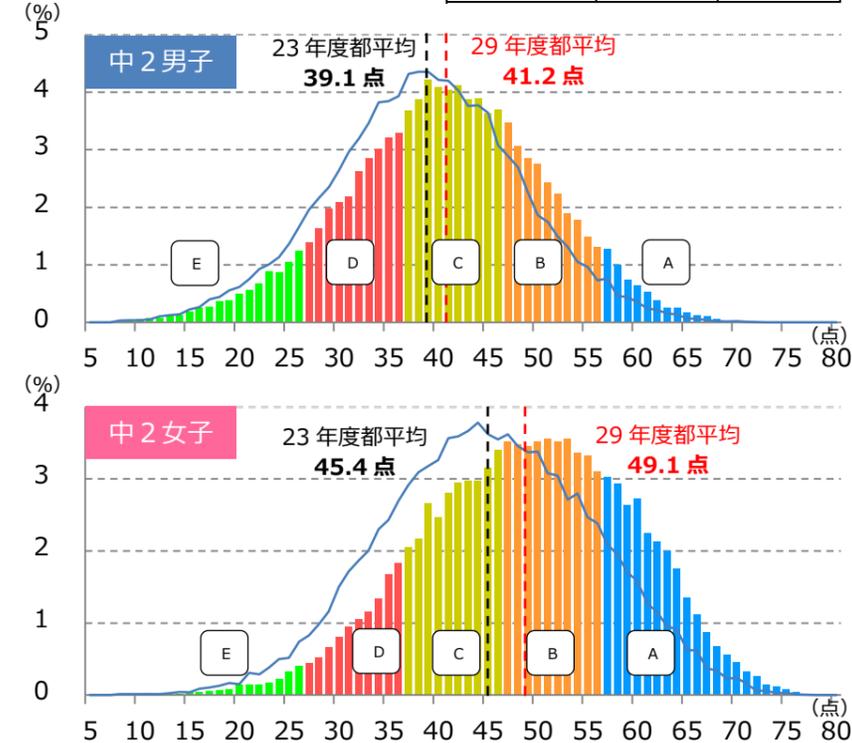
① 具体的目標値との比較



② 種目別傾向 (H28 年度との比較)

	中2 男子	中2 女子
握力	↗	↗
上体起こし	↗	↗
長座体前屈	↗	↗
反復横とび	↗	↗
持久走	↘	↗
シャトルラン	↘	→
50m 走	↗	↗
立ち幅とび	↗	↗
ボール投げ	↗	↗

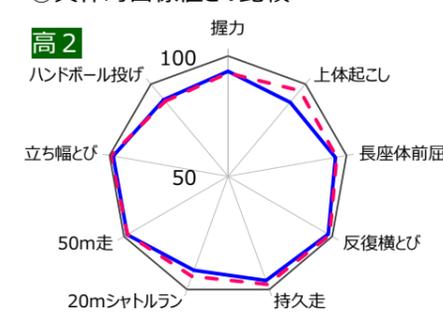
③ 体力合計点の分布状況



- 目標値と比較すると、「握力」「20m シャトルラン」「ハンドボール投げ」の値が低い。
- 前年度の比較では、向上傾向を示す種目が多い。女子は「20m シャトルラン」以外の種目の値が向上。男子は「持久走」「20m シャトルラン」の値が低下。
- 体力合計点平均値は、東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度からは向上傾向を示し、特に、女子の値が上昇している。

(3) 高等学校 ~ 2 年生の結果を抜粋~

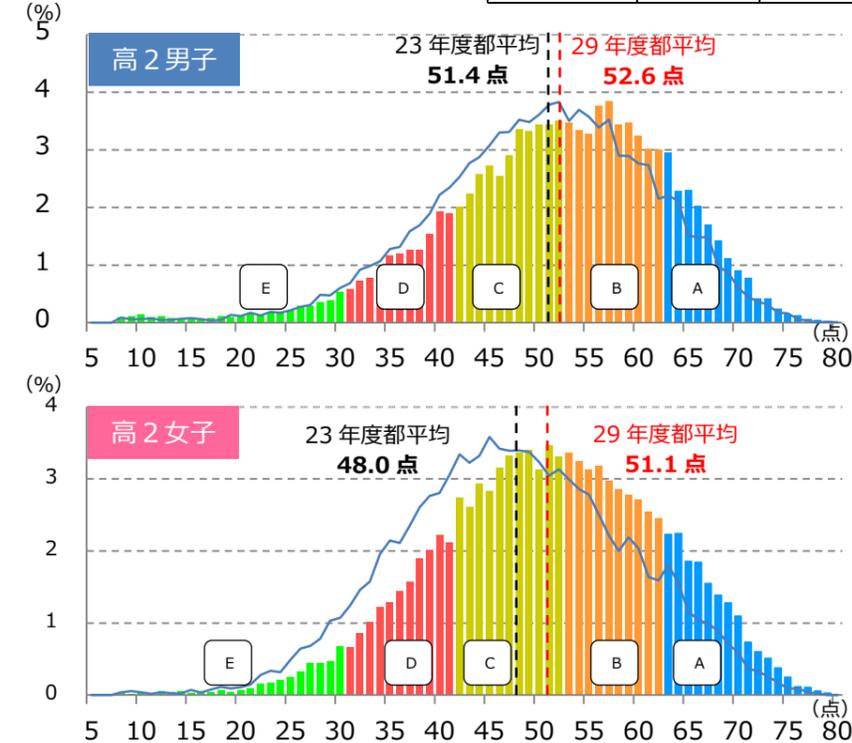
① 具体的目標値との比較



② 種目別傾向 (H28 年度との比較)

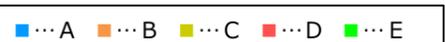
	高2 男子	高2 女子
握力	↘	↗
上体起こし	↘	↗
長座体前屈	↗	↗
反復横とび	↗	↗
持久走	↘	↗
シャトルラン	↘	↗
50m 走	↗	↗
立ち幅とび	↗	↗
ボール投げ	→	↘

③ 体力合計点の分布状況

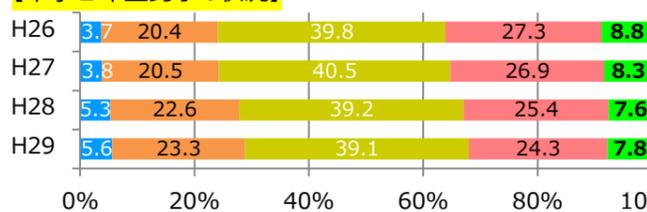


- 目標値と比較すると、「握力」「20m シャトルラン」「ハンドボール投げ」の値が低い。
- 前年度の比較では、女子は「ハンドボール投げ」の値が低下したが、他の全ての種目の値が向上。男子は「握力」「上体起こし」「持久走」「20m シャトルラン」の値が低下。
- 体力合計点平均値は、東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度からは向上傾向を示し、特に、女子の値が上昇している。

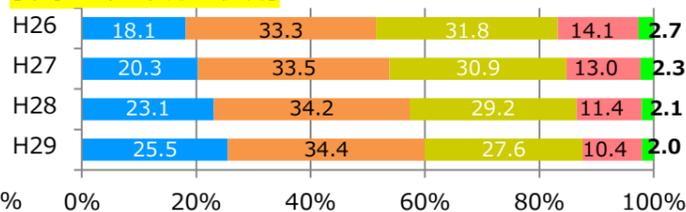
(4) 総合評価の推移 ~回答の推移 (H26 から H29)~



【中学2年生男子の状況】



【中学2年生女子の状況】



- 体力合計点平均値が向上を示しているのとおり A + B + C 層の割合は年々増加しているが、E 層の割合は大きく変化していない(二極化傾向)。
- E 層の割合がある一定数あることから、これまでの取組と合わせて体力が低い児童・生徒への取組を講じていく必要がある。

(5) 運動習慣の状況 ~運動実施時間~

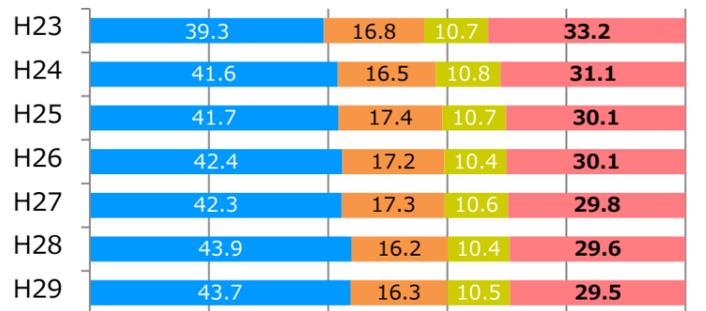
【中学2年生女子の状況】



1日の運動・スポーツ実施時間と総合評価の相関



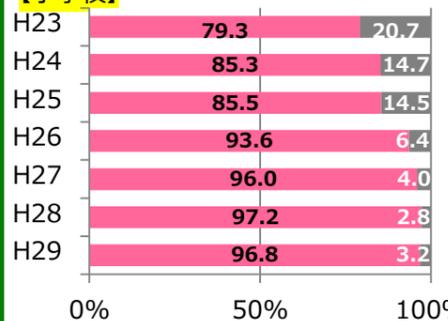
1日の運動・スポーツ実施時間 回答の推移 (H23 から H29)



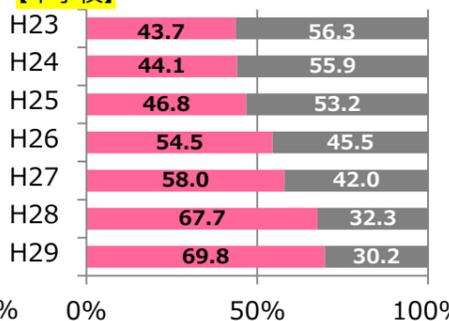
- 運動時間と総合評価には相関が見られるが、運動時間の回答の推移に大きな変化は見られない。
- 中学校2年生女子では3割程度の生徒が30分未満である。

(6) 学校の取組状況 ~学校全体で児童・生徒の体力向上や、運動習慣を確立するための手だて(体育の授業以外)~

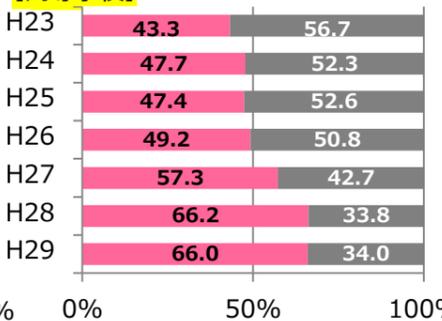
【小学校】



【中学校】

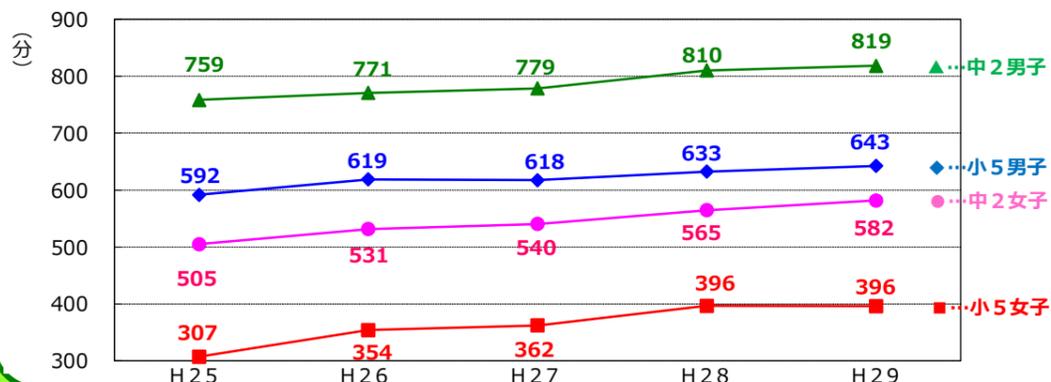


【高等学校】



- いずれの校種においても、体育の授業以外にも体力向上に向けた取組を実施する割合が増えてきている。こうした学校の取組が、体力合計点平均値が向上していることの大きな理由として考えられる。

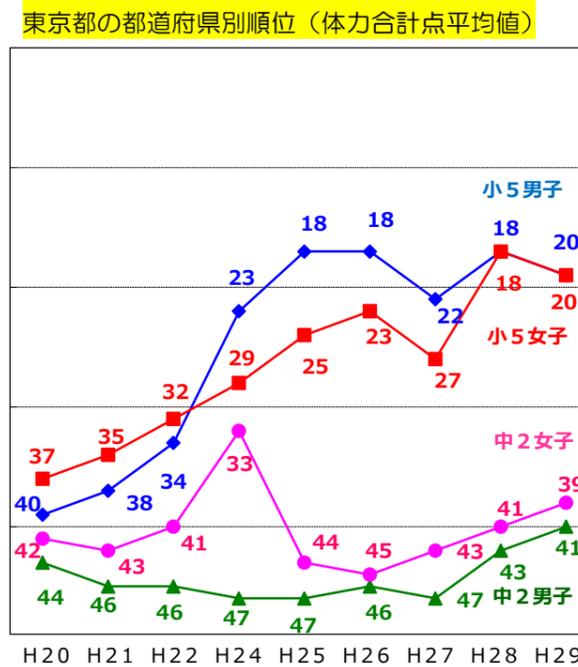
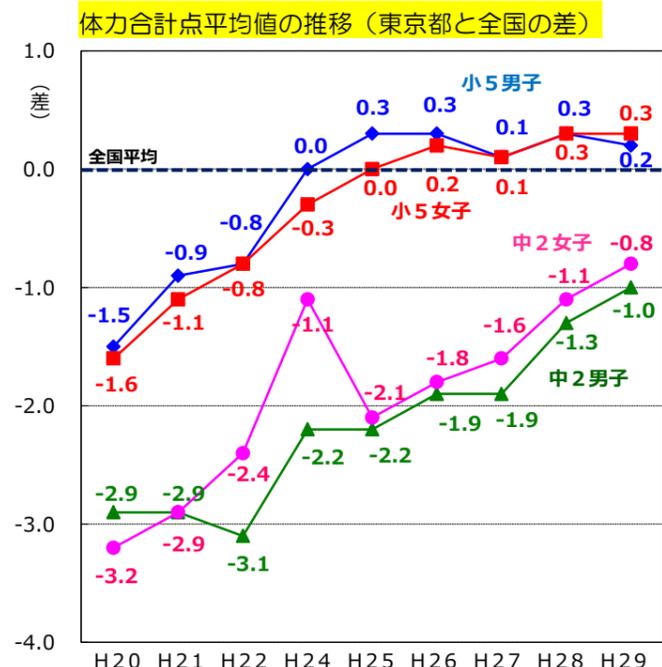
(7) 東京都の1週間の運動実施時間 ~全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から~



- 経年比較すると、小学校5年生、中学校2年生男女ともに1週間の運動実施時間が徐々に伸びている。

(8) 体力合計点平均値の推移・都道府県別順位 ~全国との比較から~

※平成23年度は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が中止となった。



◆アクティブプラン to 2020 における目標◆

体力合計点の東京都平均値を、小学生は都道府県別の上位、中学生・高校生は全国平均値程度まで向上させる。

3 中学校の体力向上に効果のあった取組

- 各学校が体力向上に危機感をもち、体育の授業以外の取組を充実 (取組実施校 69.8%)
- 調査結果を踏まえた生徒の体力・運動能力を向上させるための取組の実施 (取組実施校 89.9%)

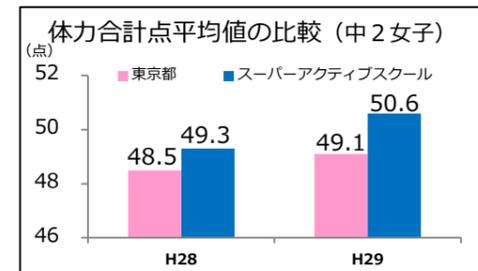


4 平成30年度における重点的取組

① アクティブライフ研究実践校(小学校20校・スーパーアクティブスクール(中学校62校)による研究発表会

体力向上及び健康教育の研究指定校による3年間の研究成果を発表し、優れた実践を普及する

- 運動と健康との関連を図った取組
- 投げる力を向上させる取組
- 運動が苦手な生徒等を対象とした「体力向上部」の普及及び体育的活動の工夫
- 家庭との連携、地域人材の活用等、外部と連携した取組 など



② 新体力テストの効果的な実施・結果活用の更なる充実

体育担当指導主事や体育主任の連絡協議会等を通し、新体力テストの効果的な実施や結果活用を更に充実する

- 事前指導の充実 (目的や意義の理解、一人一人の目標値の設定、各種目の実施方法の周知)
- 結果を返却する際の工夫 (一人一人の体力の変化や目標値の達成状況等を具体的に評価)
- 運動が苦手、運動に意欲的でない児童・生徒への個別指導の充実